

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1353号 平成30年10月15日

10月号

貴乃花問題で考える日本人の文化水準……………本紙編集部……………	1
「アニマルライツ」なる悪質な偽善が蔓延中……………	2
大陸情報 / 中国経済の一寸先は闇……………	2
半島情勢 / 北朝鮮社会に変化のきざし……………	3
日本経済界、監督官庁の「寒い話」……………	4
台湾情勢 / 台湾パスポートの怪……………	6
地方本部活動報告……………	6

本社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 2-5-24-103
電話・FAX (03)5313-0215
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
主幹・編集長 / 谷田 透

貴乃花問題で考える日本人の文化水準

本紙編集部

このところ、貴乃花がどうして相撲界を捨てるのが話題になっている。大相撲社会の問題、政治的問題、イジメ問題、人格問題：と百花繚乱の評論パレードだ。

肝心なことは、この問題が「日本人の文化水準」を測るテーマの一つだということである。

貴乃花が平成の大横綱だという解釈に異論は無いだろう。実績は文句なしである。彼の性格や人格については全く知らないのが、マスコミ報道と噂でしか測れないが、日本相撲協会という公益社団法人の中で彼のあり方には問題が大きいというのは確かだろう。

北の湖、千代の富士といった昭和の大横綱が現役で睨みを利かせていた数年前までは、こんな問題は内部で処理できていた。それができなくなったのは、協会幹部内に大横綱だった「怖い人」が居なくなったことと関係ありそう



だ。実績も実力もある「怖い人」の存在は、組織を安定させ序列を作る効果が大い。「あの人が言うのだから仕方がない」というのは、畏敬の念を含んだ日本人の本質的な思考基準である。これは縄文弥生の時代から、集団生活社会が形成される過程で日本人が習得した「統治法」の一つである。社会の安定を優先することが、皆が平和に暮らせる近道だったのである。

相撲協会の安定を乱すきっかけとなったのは、モンゴルの大横綱・朝青龍の存在である。帰化して日本人になっていれば話は違ったのだが、彼はいずれモンゴルに帰って大統領になる夢があった。相撲界に骨を埋めるつもりなどなかった。そんな人物に、日本人の力士は誰も勝てなかった。親方の言うことさえ聞かないモンゴル力士が、大横綱になってしまったのである。

協会が頭を抱えていた時、正義のヒーロー

として登場してきたのが、当時同じモンゴル力士でも人格高潔と評判の白鵬だった。彼は協会の望み通りに出世して、文句なしの大横綱となった。帰化して部屋を持てば、協会の将来を担う人物になることは確実視された。

だが実際の相撲界では、日本人以外の血が入った力士を一段下に置きたがる傾向がある。自分たちの集団社会が、一つの血統的同一性を持っている神代からの伝統だと思いたいからである。これは大きな「文化の問題」である。

大横綱だった大鵬は、白系ロシアの血が入っていた。貴乃花は、祖父若乃花の時代に、朝鮮総連の機関紙である「朝鮮画報」の巻末白黒グラビアで特集されたことがある。「我が同胞」というコーナーだった。古い文化的価値観に縛られている協会としては、偉大な横綱であっても、純粹日本人ではないという捉え方をするものである。

「怖い人」の不在と、文化的価値観として刷り込まれている「純粹日本人」という曖昧な基準が、できるだけ「自分たちの集団社会の秩序と安定を守る」という方向に働くのは当然の流れだろう。

「貴乃花の人格に問題がある」「協会が頑固で真面目な貴乃花を嫌いイジメをしている」「相撲界の中のモンゴル力士会が諸悪の根源」などと少し違った方向から評論する人たちが多いが、その根底にある問題（これを差別と呼ぶ人もいる）を見なければ、「貴乃花問題」から考えねばならない我々自身の課題が見えてこない。

「百年経っても生まれつきの根性は変わらない」と言われるように、我々は伝統文化を血族的に引きずっている。これが日本人の「文化水準だ」と言う冷静な分析が、今の時代には求められているのではなからうか。

「アニマルライツ」なる悪質な偽善が蔓延中

人間として生存する権利を欧米では「ヒューマンライツ」と呼ぶ。これは広範な人権思想を意味するものではない。欧米の裁判では、社会的に差別されている者の救済では「ソーシヤルライツ」が使われ、政治的な差別は「ポリテイカリーライツ」が使われる。生命の危機にある時に使うのが「ヒューマンライツ」である。

これを単純に動物に当てはめて、肉食の禁止やイルカ捕獲禁止だけでなく、「動物園廃止運動」「水族館廃止運動」にまで発展中である。

この独善的で危険な運動は「先進的フェミニスト」と呼ばれる極左過激派の、非暴力革命の一環なのである。

先日、東京オリンピックの前哨戦として開催されたヨットレースでは、歓迎会で披露したイルカショーに対して、先進的フェミニストに操られた選手やコーチたちが一斉に抗議して、本番への不参加までを言い出した。こ

の気が狂ったような感覚が、いま蔓延しているのである。

「アニマルライツ」を叫ぶ連中は、このようなことに噛み付くことで存在感を見せているが、何故か東南アジアや南米の犬が、狂犬病やフィラリアで死ぬのを防ぐために予防注射しようと言ふ運動は起こさない。アフリカで象の密漁には文句を言うが、中国人が爬虫類を絶滅するまで取り尽くして食べていることには文句を言わない。要するに相手にダメージを与えて、自己満足が出来れば良いのである。これを「偽善」と言う。



大陸情報 中国経済の一寸先は闇

① 中国人観光客を減少させるサインが出た

秋葉原や日本橋の電器街で、中国人観光客が買い物をする店に「ラオックス」という大手量販店がある。大阪で「上海新天地」という物産会社を営んでいた上海共産党の大物がオーナーだが、ここが「銀座店」を閉店することにした。客の減少が理由だが、「銀座に店がある」というステータスは中国人にも圧倒的な宣伝となり、中国共産党にとってもプライドを満足させるものだった。



ところが北京の方針が変わり、日本への観光客を減少させるように誘導せよとなった。これからは、今までのように「中国人観光客への利便性」を考える意味が無くなってきたのだそうだ。中国人の中流階級が日本や韓国に買い物に出かけることは、今後は減少する。日本側でも、中国人の留学生や研修生などの

親族が長期滞在することを規制したり、日本で働く中国人永住者の親族が日本で保険診療などのサービスを受けにくくする方針などで、定住者以外の中国人は減少傾向になると見られている。

そうなれば、ラオックスも基幹店を銀座に置いておく意味が無くなる。今まで通り秋葉原と日本橋に拠点を構えていればいいというわけだ。

② 中国退役軍人が行なう反政府デモが面白い

習近平が軍隊改革で陸軍を二十万人削減し、今までの退役軍人で恩給も保証も与えられていない一千万人と併せて、北京中央政府に対する怨嗟はかなり大きくなっている。

各地で退役軍人がデモする時にも、当局は十人以上が集まれば取り締まる。ゲリラ的に数百人が集まる時には、鎮圧部隊を早めに送り込む。

先日、某所で約千人の退役軍人が軍服を着てデモをした。陸軍が鎮圧部隊を派遣した時、

デモのリーダーは拡声器で「私たちの現在の姿は、君たちの十年後の姿だ。よく見ておきなさい」と訴えた。すると鎮圧部隊の若い兵士たちは全く動かなくなり、デモ隊は整然と街を行進したという。

これは軍隊内で「このままでは兵隊は使い捨てライターだ」という自覚が増大していることの証明だ。巨大化させすぎた軍隊を縮小する難しさを、今ごろ習近平は痛感していることだろう。

③ 中国金融の終わりの始まり

先日、国営銀行の中国建設銀行上海支店が販売した九九・九九の金のインゴットに磁石がくっつくという出来事があった。「偽金塊事件」として大騒ぎになったが、中国人は以前から「いざれ近いうちに金融恐慌が起こるので、資産は全て金の現物に換える」という話が流されていた。国家も個人も、金現物を異常に欲しがる。

国営銀行が偽物の金インゴットを販売したことは、実際には販売用の金インゴットは存在していない証明になったのだ。偽札と同様に、国民の金融経済に対する不信感が増大すれば、社会不安は「反政府」に向かうことになる。



ただでさえ、アメリカとの貿易戦争で国家経済は破綻する恐怖に押しつぶされそうなのに、国内で反政府デモが大きくなれば、まず金融が破綻する。

それを回避しようと先手を打って、人民元のドル交換レートの通貨切り下げが行なわれ

半島情報 北朝鮮社会に変化のきざし

① 公式スローガン変更の意味は？

北朝鮮では金正日の時代から「先軍」が国是になっていた。当然のことながら、公式スローガンは「先軍朝鮮」だった。それが昨年後半から、変更され始めている。

ラジオプレスの調査で判明したのだが、金正恩を称えるスローガンが「先軍朝鮮の太陽」

るようだ。すでに十元は紙幣から硬貨になる予定だ。利息の単位で五角が使われるが、街で使うのは一元硬貨からである。それが今後、十分の一に切り下げが行なわれ、最低が十元になりそうだ。

すると物価は一気に上昇し、貨幣価値は上がる。国民は通貨人民元を求めようになり、反政府運動は起きる心配がなくなる…という目論見だ。

だがこれは、地獄へ向かう高速道路のようなもので、途中で引き返せなければ金融は破綻する。今のうちに、中国にある資産は処分することを勧めます。

④ 中国にもある「民間軍事会社」

アメリカの民間軍事会社は「警備会社」と呼ばれることが多く、軍の特殊部隊のOBなどが退役後に所属している。このような例が、中国にもあるというのだ。

「金盾保安」を頂点として、解放軍特殊部隊のOBや安全部のOBなどが「民間」という隠れ蓑の名前を使って世界中に出ている。

世界中で中国人および中国企業の安全を守る…などと宣伝文句を並べているが、実際には特殊工作や破壊活動を請け負う「黒い機関」なのである。これらが「二帯一路」を利用して、アジア・中東・アフリカだけでなく、ヨーロッパにまで進出しようとしている。

これは一大事であるが、我が国は関心が無いようだ。そのうち「金盾保安」に「日本国内に潜伏する中国マフィアを殺害してくれ」と誰かが発注して事件化すれば、やっとなら政府や警察庁も慌て始めることだろう。

金で雇える、確実性の高い仕事、秘密保護は安心…となれば、喜んで仕事を発注する人が出てきそうである。

だったものが「主体朝鮮の太陽」に変わっているという。軍事優先の国是を変更するということは、政治が軍事に優先していることのアピールである。

二〇一六年六月の朝鮮最高人民会議の席で、「国防委員会」が「国務委員会」に名称変更されており、この時点から動きは始まっていたようだ。

主体思想というものは、金日成が「共產主義とも資本主義とも違う新しい民族主義」として打ち出したもので、アメリカにもロシアにも中国にも隷属しない自主独立を掲げ、韓国も一日も早く主体思想で統一されるべきだと訴えていた。

その「主体」が棚上げされていたのは、金正日に軍歴が無かったために革命指導力に疑問符が付けられていたものを払拭しようと、肩肘張って「軍事優先で強国を建設する」とラッパを吹いたからである。



「建国の精神に戻れ」と言っている金正恩としては、核爆弾が完成したのだから軍事優先はもう必要ないだろうと理由づけをして、国内の強硬軍人や第三国と結んでいる勢力が文句を言えないようにしているのだ。

「経済建設と核武力の並進路線」から「経済建設に総力を結集せよ」と変更されたスローガンも、金正恩の実権掌握を裏付けている。

民族的本質は変わらないだろうが、国民意識というものは「国家の事情」次第でどのよ

日本経済界、監督官庁の「寒い話」

① ソフトバンクが倒産する日が近い？

ソフトバンクという通信会社と、孫正義（写真）の投資会社は別物だと考えた方がよい。ブルームバーグの分析発表を見ると、「ソフトバンクグループは通信会社ではなく投資会社である」となっている。国際的な金融界からは、孫正義が何処にどれだけ投資して、見返りはどれだけ有るのかという興味しかない。

ソフトバンクグループが銀行団から借り入れている「有利子負債」の総額は一五兆円を超えているが、通信部門が年間七千億円の利益を上げているので、金利支払いが停滞したことはない。だから、新規事業でも投資でも、銀行団はほとんど貸し付けていた。

孫正義個人には、投資先の株式配当などで年間一〇〇億円が入るが、これはグループの

うにでも変わるものだ。それを勘違いしないように、我々は冷静に「北朝鮮の国民動向」を見てゆきたいものである。

② 平壤の進学事情

平壤（ピョンヤン）では「一人っ子」家庭が圧倒的に多い。多くても二人しか子供はいない。平壤市民という特権階級では、子供のために必死になって無理をする。これは中国の状況と酷似している。

平壤の小学校入学式では、着飾った親が主役である。大学入試ともなれば、人生に一度しか与えられないチャンスに、家族そろって大学の校門前で祈り続ける。

北朝鮮では、大学受験は一枚のみの志願で、一回だけの入試だ。大学で勉強できれば、国家公務員になって一生安泰に暮らせる。

すでに平壤も、昭和三十年代の我が国と似た様相になっている。障害児も増加傾向で、ダウン症や自閉症が増加し、二〇一四年には「障害児回復院」という施設が作られ、欧米から専門家が招請されて北朝鮮医師たちの指導をしている。

「障害児は家の恥ではない」と親たちを教育することから取り組みは始まっている。平壤では、少しずつではあるが、特権階級の社会に「人権思想」が育ち始めている。

有利子負債の支払いには回らない純粋な「個人資産」だ。

ソフトバンクグループの個人向け社債が大量に売られており、上場したら莫大な儲けになると信じている人も多いようだが、肝心の通信部門がアップアップの状態では楽天に買収してもらおう前に倒産させてしまう可能性もある。大量の社債を紙くずにしてから、楽天がキャリアであるソフトバンクを買い取って「通信局持ち」になり、サッカーJ1のヴィッセル神戸だけでなくプロ野球の球団を新設する計画を打ち出すかもしれない。

小泉政権時代の竹中平蔵に「グローバル経済」の旗振り役をさせて、先祖が日本人でな



い経済人たちを「社内公用語は英語で、民族国籍は一切問わない」ベンチャー企業として急速発展させ、「日本式」で続いた大企業を没落させて支配者の入れ替えを進めた国際金融グループは（孫もメンバーだが）、古くなった靴は平気で脱ぎ捨てる。それを理解しておかねば、変に期待する分、失望も大きくなってしまふ。

② 阪神タイガースが阪急に奪われる

「阪神と阪急は合併しているからいいじゃないか」とファンでない一般人は思うだろうが、阪神タイガースのオーナー権を阪急が奪い取る話が出ていると言えは興味が湧いてくる。

「阪急電鉄の老害」と陰口を叩かれていた角和夫会長が「現状のタイガースで結果が出ないのであれば……」という前提付きで株主総会で発言したのが、タイガースの球団経営に自らが乗り出したいというところでもない野望だった。



能力は低いが自己顕示欲と権力志向だけは人一倍の老人が、今度は甲子園球場でスポーツ新聞記者たちに囲まれて余生を送りたいと言いつ出したのである。

角和夫が一番興味のあるエンターテインメント分野では、阪急系列では東宝があるのだが、ここには小林一三の孫である松岡功（松岡修造の父親）が睨みを利かせており、角和夫ごとき雇われ社長では意見も言えない。それならばスポーツ分野で君臨したいと考えた結果「タイガース」となるのは自然の流れだろう。何しろ、角和夫の力では「小林三一族」を一掃することなど不可能だ。残された道は「阪神タイガースのオーナー」というわけだ。

③ スルガ銀行事件で問われる 金融庁の責任

シェアハウスの悪質不動産業者と組んで、客の資産証明を大規模に書き換え、桁違いの融資をして荒稼ぎしていたスルガ銀行が倒産の危機にある。

静岡県では二流の地銀であるスルガ銀行

は、岡野一族のオーナー会社であり、「静岡では儲からないから東京で儲ける」との路線で、一三三支店の大半を東京都内に置いた。静岡県には六六店舗しかない。しかも、法人客は一割ほどしかなく、「資産証明を偽造させた」個人客をローン客として迎えていた。この路線を肯定し称賛していた人物こそ、金融庁長官だった森信親である。



森長官は、事ある毎にスルガ銀行のビジネスモデルを引き合いに出して、「地銀は座して死を待つより打って出る」などと檄を飛ばしていた。

「他行が貸さない所に貸し付けて、継続して高い収益を上げる」と言う森長官に対して「スルガ銀行は調査が必要です」と言える部下は居なかった。それが災いして、今回の事件につながった。

財務省では、セクハラの前田次官、森友文書の佐川長官などの「不名誉除隊」が続出だが、悪質性と重大性から見れば、スルガ銀行事件の「影響犯」である森長官の犯罪性が群を抜いて重い。

④ 日本年金機構に任せてはならない

日本年金機構が年金受給者データの入力業務を、国内下請け会社に発注し、そこから中国企業に孫請け発注されていた事件が記憶に新しいが、事もあろうに年金機構は事件発覚後に国内下請け業者を切り捨て、中国の孫請け企業を直接下請けに格上げしていたのである。

この大連の業者は、中国共産党との関係も疑われている会社なのだが、年金機構では「この企業に資格や能力があるから委託したのであり、中国企業という国籍は重視していない」と宣うた。

少し馬鹿なのか、それとも確信犯か？



台湾情勢 台湾パスポートの怪

台湾では、今までに六、〇〇〇万枚のパスポートを発行している。これは中華民国・国民党政府がやったことだ。

政権が民進党に代わった時から、「誰が台湾パスポートを持っているのか？」と話題になっている。大陸の人間が少なからず持っているのは周知のことで、国民党が中国共産党と裏取引していた証拠だと言う声も大きくなっている。

「台湾人だと信用していたら中共のエージェントだった」という話は山ほどあるが、それは氷山の一角だろう。政府の保証でもあるパスポートさえ信用できないとは、早く台湾は中華民国に出ていってもらわねばなるまい。

地方本部活動報告

■関西本部

◇七月二十日(金)

・午後六時半より尼崎にて「むすびの集い」勉強会。党員、有志計七名参加。資料は「種子法と漁業権の崩壊が意味するもの」ほか。

◇八月十七日(金)

・午後六時半より尼崎にて「むすびの集い」勉強会。党員、有志計六名参加。資料は「難民問題を考える」ほか。

◇九月十四日(金)

・午後六時半より尼崎にて「むすびの集い」勉強会。党員、有志計十名参加。資料は「生野義拳」ほか。

◇十月十三日(土)

・正午より、朝来市生野町・山口護国神社にて、恒例の生野義拳慰霊碑清掃奉仕。現地には過日の大型台風の影響が深刻に残されてはいた

編集後記

夏の甲子園は朝日新聞の主催だが、これは一九一五年に「全国中等学校野球大会」を大阪朝日新聞が主催したことから始まる。「野球害毒論」を展開していた朝日だが、一致団結して勝利するという軍隊教育に効用あるスポーツだということ、帝国陸軍と仲の良かった朝日が、一転して学生野球の全国大会をやり始めたのだ。

それはいいとして、今年の夏の大会では選手、観客、応援団にどれだけ熱中症で倒れた人がいたことが。重症者や死者が出なかったのは不幸

台湾は日本領

だったものが、第二次大戦に負けたことによってアメリカの保護領になり、国共内戦で敗北した中華民国・

国民党が「一時的に」亡命してきたもの。当初、アメリカと中華民国は「対中共」の同盟国だったので、アメリカが「台湾統治を中華民国政府に一時的に委任する」としたのである。

つまり台湾は今でも「日本領でアメリカ保護領」なのである。これは国際法上の問題であり、台湾イコール中華民国と考える方こそ「国際慣例」というだけの話なのである。



が、有志十名が参加し、雑草や落ち葉の除去作業に勤しんだ。清掃後、碑を通して維新の前にして散った南八郎ら志士の御霊へ黙祷を捧げ、境内にて直会。午後一時半頃解散した。



中の幸いとしが言いようがない。

軍事教練式の開会式は伝統だが、今年はさすがに「給水タイム」を強制的に織り込まざるを得なかった。それぐらいの暑さで、医療関係からも高野連は「嚴重警告」を受けていた。もし来年も、今年同様の暑さなら、ナイター開催を真剣に考えた方がよい。

制度の見直しは高野連が提案することになっているが、朝日が「人道的配慮を要する」と紙面でキャンペーンすれば簡単に決まることだろう。真剣に見直しを考えるべきだ。